

地域別交流会 開催レポート

今回のリアル交流会は、地域ごとの特色や活動を活かした対話や共感が生まれていってほしいという思いから、居住地・勤務地に合わせ、東日本・西日本のそれぞれ3か所で開催。全会場で161名の方にご参加いただきました。これまでの交流会のコンセプト「参加者のコミュニティとなる」に、今回はつながりを強くしていくための要素として「楽しさ」をプラスしてみました。これまでのリアル交流会をしのぐような盛り上がりを見せ、最後にはオンラインで3会場をつなげて、各会場の熱気を分け合っていました。



東京



名古屋

2024年2月17日 東日本

(東京・名古屋・仙台)



仙台



大阪

2024年2月24日 西日本

(大阪・岡山・鹿児島)



鹿児島



岡山

「知らんけど～」精神で、「作戦カイギ」のテーマを深める

参加者の皆さんには、受付で引いていただいたクジの番号があるテーブルに座っていただきましたが、顔見知りもいれば、もちろん「はじめまして」の方もいて、最初は緊張気味。そこで皆さんにお渡しする参加者プロフィール資料の右隅に、「当日お楽しみクエスチョン」という空欄を設けました。これは自己紹介のための仕掛けで、「学生時代の思い出の場所」をいろいろな方にどんどん聞いて書き込んでいただきました。制限時間は15分でしたが、中には9人もの！思い出の場所を聞き出した方もいました。



鹿児島



仙台

場がほぐれたところで、「作戦カイギ」スタートです。自分が話したいこと、深めたいことを付箋に書き出し、同じテーブルになった方々とお互いの付箋を見ながらテーマを深めていただきました。その中から一つのテーマに絞ってA4の白紙に書いて会場全体で見せ合い、今度は同じようなテーマを持つ方々でグループを作ってもらって、アイデアやヒントを持ち寄って語り合ってもらいました。その際のグラドルールとして、①「課題の話」ばかりにならない、②知識ではなく「経験」で話し合う、③「知らんけど～」精神で選択肢をたくさん出してみる、④問いかけ合うよう心掛けるという、四つを皆さんに意識してディスカッションしていただきました。



大阪



東京



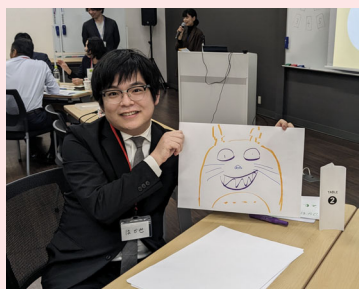
名古屋



岡山

|| 自己紹介で似顔絵リレー「この生き物はなに…？」

テーマ別にグループを作っていた後には再度自己紹介を兼ねて、「似顔絵リレー」を実施。お題のモノを一人10秒の持ち時間でリレー形式で描いていくというもの。お題は「トトロ」。トトロってどんなだっけ、と思い出す暇もなくスタート。トトロ…ではない新しい生物があちこちで生まれ、大盛り上がり。最後に会場内で共有し、爆笑に包まれました。



岡山



東京



名古屋

助成終了後の姿も見据えて「自走・継承」について考える

グループでのディスカッションが深まってきたところで、今度は新しい視点を獲得の時間。最低一人がグループに残り、残りのメンバーは他のグループでどのようなことが話し合われたのかを見て回りました。同じ悩みを持っているんだと共感したり、思いもよらなかった取組み事例や考え方、捉え方を知るなど、会場全体でいろいろな学びを得ていただきました。

次のテーマは「自走・継承」。助成期間終了後も、より良い学びづくりを活発化していくために、財団が皆さまにお願いしたいことです。どうやって自走継承していくか、こんな形を理想としているということを書き出し、グループで共有していただきました。



名古屋



東京



大阪

最後に、同日に開催している3会場をオンラインで結び、代表の方にコメントをいただきました。

「同じ意志を持っている力強いエネルギーがある人たちと一緒に話すとこんなにも面白いんだと感じました」「学校以外の方々から、若い人たちを育てていかないと日本はお先真っ暗になってしまうという想いを直接聞くことができ、私たち（教員）は目の前の宝をもっともっと皆と協力して育てていかなければと勇気を受け取りました」「今回の交流会では、私たち教員の心もスイッチが入って、すごい楽しい会でした」「手を挙げて話すのは苦手なのですが、自分も変わらなければと思ってお話しさせていただいています」「今日は、現場にいる皆だからこそ話ができて共有できました。つながっていくこと、気軽に楽しむことは本当に大事なことだと思います」「正直心が落ち込んでしんどいなって思うこともあったんですが、皆さんのアイデアや『うちも一緒にやで』って声をもらったりして、ここに来られてよかったなと思っています」「やっぱり人とのつながりが一番の財産だと思ってます」「先生方との会話は、思考を深める時間になりました」「はいさーい、九州・沖縄からお届けしてます。学校の先生方に納得感を持って探究に取り組んでもらうことを課題として取り上げている方が多くいました。僕自身もしっかり納得感を持って取り組んでいきたいと思います！」。

感想が語られるたびに歓声が上がリ、コメントしてくださった方に大きな拍手が送られました。最後に当財団常務理事妹背から閉会のご挨拶をさせていただき、交流会は終了となりました。交流会後の懇親会でも、近いからこそそのつながりを深めていただきました。



岡山



仙台

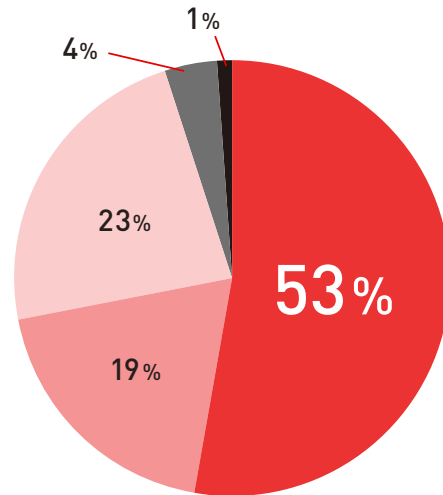


アンケート結果から

Q 本日のワークショップの満足度を教えてください。

10点満点で評価いただき、半数以上の方に10点をつけていただきました。

■ 10点 ■ 9点
■ 8点 ■ 7点 ■ 6点



Q 新しい気付きや感想、今後の取り組みたいことなど

探究を継続・発展していくためには、予算・人・時間の余裕が必要。このうち教員や学校だけではどうにもならない予算について、今一番悩んでいましたが今回の交流会で悩んでいないでチャレンジしていこうと思えました。せっかく良い探究をつくりあげてきたのなら、どう残していこうか具体的に考えるきっかけとなりました。(仙台会場・カテゴリー1)

今後の資金の工面についてアイデアを共有し、一つの可能性(クラファン等)を得ることができました。やっぱりリアルで話をするのは素晴らしい。(仙台会場・カテゴリー1)

主体性を育むために「ふざける はっちゃける練習を行う」という話を聞いた時、最初は笑ってしまいましたが、意外と大事なのではと感じました。探究を通して、外部と接続する際、「本音の生徒」と連携しない限り、外部(NPOや起業)にとってのメリットは少ない。しかしながら、外部の人に対して、自分の素を出せる生徒はそんなに多くない。だからこそ「素を出す、はっちゃける」トレーニング、実は重要だと思いました。学校に戻って実践します。(仙台会場・カテゴリー1)

探究に取り組む際、「生徒のスイッチ」をどう入れるかということについて、つい教員がと考えてしまいがちでしたが、先輩や同じ年代のメッセージは生徒に届きやすいと聞き、目からうろこでした。(仙台会場・カテゴリー1)

校外とのつながりを大切に、地域全体で生徒の成長を支援していきたいと思った。またフォローしてくれる団体が想像以上に多いことに気づいた。(東京会場・カテゴリー1)

企業とのつながりは、教員からはなかなか難しく、このような機会につながれるとありがたいと思いました。また探究を楽しもうと思っている教員がいるということが何より励みになりました。(東京会場・カテゴリー1)

悩みを共有できただけでなく、自分がいま行っていることの見方を少し変えるだけでできそうなヒントが得られました。大変中身の濃い時間でした。せっかくのご縁、知気を活かしてまいります。(東京会場・カテゴリー1)

以前行われていたオンラインでの事例報告会でぜひともお会いしたいと思っていた方とお会いすることができ、お話しができたのはとても良かった。(名古屋会場・カテゴリ-1)

卒業生の活用は、あまり意識していない内容でしたが、自走のキーワードになるかもしれません。(名古屋会場・カテゴリ-1)

継承するのはプログラムではない。常に創っていれば組織は形がい化しない。(名古屋会場・カテゴリ-1)

改めて自分が現在の職場で取り組んでいる探究活動をメタ認知し、その良さとまだまだ改善していく余地があることを知ることができた。「中間発表に外部の人を招いてみる」とか、探究活動をさらに進めて「哲学対話」というプロジェクトを始めてみるとか、アイデアが生まれました。(大阪会場・カテゴリ-1)

校内体制や教員の役割にすごくこだわっていましたが、探究の授業自体は枠を決めきらないほうが良いという意見を頂きました。また活動に関する資金や外部との連携方法についても柔軟な考え(ふるさと納税、クラブファン等)を提案していただきました。(大阪会場・カテゴリ-1)

プロジェクトの継承については、資金も大事だけど、プロジェクトを推進する人材の育成・継承が大事であり、ネックであることに気づきました。地域交流会は、地理的に近い者同士で交流するので、その後の連携につながりやすいと感じました。(大阪会場・カテゴリ-4)

「知らんけど～」の発散の場を学校の中で(教員も生徒も)どう作っていくか?はこれから考えてみたい。(大阪会場・カテゴリ-1)

各校では厳しい環境にあったり、共感者がいない等、課題を抱えていても、似たような立場の人たちが集まって知恵を集める意義をとて感じられました。私は大学教員ですが、高校側のご意見はとても参考になります。また近県の方から地域の状況もお聞きでき、新たなコラボレーションの芽も見つけそうな気がしました。(岡山会場・カテゴリ-4)

いろんな先生方の意識やご意見に触れることできることはもちろん、このようなリアル交流会では自分の考えがどこにあるのか、そして自分の考えに自信を持ったり、アップデートしたりなど、自分と対話できることがとてもありがたいです。(岡山会場・カテゴリ-1)

社団法人を作って寄付を集めるアイデアは面白かった。目的と目標をはっきりさせるとよいことが分かった。(鹿児島会場・カテゴリ-1)

探究担当→学年教員への説明(理解を求める)はしつこくあきらめずに行う。計画は大切だけど、修正も大切。生徒の自発的な学びのために個を大切に、発達段階に応じた協働の形を。生徒との対話、教員間の対話を大切に。(鹿児島会場・カテゴリ-1)

探究活動と課題研究の差別化ができた。教師自身の変容が、生徒の変容につながることに気づけた。職員研修の重要性を痛感した。(鹿児島会場・カテゴリ-1)

今日出会った先生の学校をめぐってみたいと感じました。お邪魔になりたくないのですが、そういうフィールドワークがあってもいいなと思いました。(鹿児島会場・カテゴリ-2)